

## フランス革命とナポレオン（第二回）

高田 友

（六）

憲法制定せられて國民の全き平等達成せられたるにはあらず。何ぞ圖らむ、國民を上下に分類して、「能動市民」「受動市民」と劃然たる差別を設けたりとは。相當なる資産を有する者のみを「能動市民」として選舉權を與へたり。

この憲法に據りて一七九一年十月に第一回選舉となり、「立法議會」發足せり。

議席を得たる政黨（會派）には、ブイヤン派、ジャコバン派、モンターニュ（山岳）派、ジロンド派あり。議場に於ては立憲君主制に固執するブイヤン派（ラファイエット、バルナーヴなど）右側の議席を與へられ、王制廃止を黨是とするジャコバン派（モンターニュ派の分派／マラー、ダントン、ロベスピエールなど）左端の議席を占めたり。此れ正しく、今日なほ用ゐらるる「右翼(rightist)・左翼(leftist)」てふ用語の濫觴とは知るべし。

今一つ名高きはジロンド派。ジャコバン派より穩健派の分離したる所にして、ジロンド縣出身者多きに據りて、かくは呼ばるるにぞ至りける。

ジャコバン派の名（當初はニックネームなれど）の付せられたるは、「ジャコバン修道院」に集合せるに據る。

（七）

佛蘭西革命に據りて國外に逃亡せし貴族連即ち「エミグレ」なり。就中獨逸に難を遁れたる者多く、ボン南東コブレンツは亡命佛蘭西貴族の再起を圖る賊壘とぞ化したりける。エミグレの告ぐる所を聞きたる歐羅巴各國の君主、何爲震駭せでやあるべけむ。

この八月(1791)に、奧太利はオスマン土耳其と休戰條約を結びて些か綽約、今にして亡命貴族の補翼たらむとの志出來せむとの觀あり。然則、コブレンツのエミグレ、アルトワ伯を維納へ送り、革命に干渉あるべしと訴求す。吃驚措く能はざるは、此の人、後のシャルルX世(ナポレオン失脚後に即位したるルイXVIII世の弟にして、一八二四年即位)なりしとの由。

奧太利大公レオポルトII世(神聖ローマ皇帝)は、マリア・テレジアの次男にして且つ亡きヨーゼフII世の弟。而してマリー・アントワネットの兄なりき。大公、シャルルX世に使喚せられて、プロイセンのフリードリッヒ・ウィルヘルムII世とザクセンに相見ゆるあり。

ザクセンの首都ドレスデンに近きピルニッツに於て、兩大公「ピルニッツ宣言」を發し、佛蘭西共和派に對ひて、武力を行使するに躊躇する所なしとの決意を示したりき。

已哉、打草驚蛇とは此の如きを謂ふならむ。佛蘭西國內舉りて憤怒遣る方なく奮起し、立法議會國民の義に訴ふれば義勇軍踵を接して巴里に參集し、旗幟を鮮明にす。フランス國家「ラ・マルセイエーズ」とは、この砌にマルセイユ義勇軍の歌ひし「ライン進軍歌」に外ならず。反革命の諸國、革命軍組みしやすしと見て、錯誤屋上屋を重ねるのみ。加之、コブレントツにて宣言を發して「佛蘭西國王に危害加へられたらむには、必ずや巴里市を破壊せずん

ば已まず」と恫喝したれば、これまた佛蘭西國民を激昂せしむるのみ、愈々國王廢位せよとの輿論を刺戟す。於是市民は、テュイルリー宮殿を襲撃、國王一家を市内「タンプル塔」なる元修道院の監獄に投じて畢んぬ。（一七八二年八月）。

巴里コミューンの成立せるは、この一七九二年の一連の騷擾の砌なりき。正式名稱はただ「コミューン」なるに留意せられ給へ。

さは、民衆の武力にて政權を奪取したる新たなる暴戾の始まりたると言ふべし。「九月虐殺」は言ふに及ばず、牢獄内にて保守派に殘虐なる拷問に及ぶ杯、恐怖政治の限りを盡したりといふべし。一七九五年、總裁政府成立するまで、巴里は如今北朝鮮の如き此の世の地獄の觀を呈したり。

八月を経て九月に及び、普通選挙ありて「國民公會」成立せり。而してつひに王制廢止せられ、共和政（第一共和政）樹立せられたり。

立憲君主派は國民公會より放逐せられ、ジロンド派とモンターニュ派（山岳派／英語 mountain の關聯語）の抗争する舞臺とはなりにけり。山岳派なる名は、議會の中にて左翼の高所に議席を與へられたるに由來す。思ひきや、ジャコバン派（ジャコバンクラブ）なるは山岳派中の苛激派の分派を爲したるにこそはありけれ。此に對して、山岳派中の穩健なる分派は平原派とぞ呼稱せらるる。

於是國王の裁判開廷せらる。罪名すなはち「公的自由に對する陰謀」および「國家の安全の侵犯」、滿場一致して有罪評決下りけり。而して、判決は、モンターニュ派の提案したる死刑選擇せらる。

一七九三年一月といふに、革命廣場に於て、ルイXVI世三十八歳を一期としてギロチンの刃下りて死す。この廣場こそ、今日コンコルド廣場と呼ばるる所なれ。

#### （八）

國王處刑せらるるや諸外國硬化して忽ちに佛蘭西に敵對す。英國ピット首相（小ピット／松平定信と同年）の提唱するありて、年内（一七九三）に「第一回對佛大同盟」結成せられたり。參加國はイギリス、オーストリア、プロイセン、スペイン、オランダ杯。

剩へ、國內にては王黨派、農民の反亂を煽動し、かつはインフレ全土を席捲、百姓草莽をして塗炭の疾苦を味ははしむ。

已而國民公會はモンターニュ派の牛耳る所となり、革命防衛を名として「公安委員會」設置せられたり。

ジロンド派はこれに異を立てたれど、モンターニュ派に彈壓せられ、國民公會より追放せらるるに至る。

次いで、モンターニュ派（ジャコバン派）獨斷專行して一七九三年憲法を制定す。急進的なる内容なりけれど、思ひきや、つひに實施せられざるままにて廢棄せられたりとは。

#### （九）

モンターニュ派にありて虐殺を指導せる首魁にマラーありしが、一七九三年七月暗殺せらる。テロリストは絶世の美女シャルロット・コルデーなりければ、嗚呼、男子の本懐これに過ぐるはなかりけむ。シャルロットは八日の後に處刑せられたれど、國民の絶讃を浴び、「暗殺の天使」とぞ名附けられたり。ジロンド派を支持する女性なりしと傳へらる。かかるテロリズムに對應せむとて、公安委員會（革命委員會）の彈壓猛威を揮ひ、眞實恐るべき恐怖政治の濫觴とはなりたりける。

**Vendémiaire** ヴァンデミエール（葡萄月／九月～十月）、マリー・アントワネット處刑せらる。さらにジロンド派の處刑踵を接して續き、革命曆制定、キリスト教排斥に至る。

その後、モンターニュ派の内部にて肅清あり、エベールの如き急進派、あるいはダントンの類の穩健派、悉く處刑せられて畢んぬ。

抑、今、權力を掌握せるはロベスピエール（一七五八～一七九四／松平定信の前年の生れ）。公安委員會を牛耳つて、獨裁權力を我がものとはなしたりけり。

ロベスピエールは貧困を克服して辯護士になりたる立志傳中の人、革命直前の三部會に立候補して當選し、頭角を現はせり。一九七一年憲法制定せられたる後、新聞を發行して世評高かりき。一七九二年テュイルリー宮殿襲撃事件の後國民公會の選舉催はさるや、巴里の選舉區より立候補してトップ當選を果す。ルイXVI世處刑を主導し、且つはジロンド黨の肅清に盡力す。かかる無慈悲なる彈壓に倦みたりける國民の間に反撥の勢ひ昂じて、「テルミドールの反動」を招けり。國民公會の議員連、ロベスピエールに告發せられむことを憂懼するの餘りに、之を除かむとは圖りたるなり。

テルミドールは「熱月」の譯あるを見れば判然たれど、革命曆にて七月末よりの炎暑の一箇月を斯くは言ふ。革命愈々人民獨裁に向ひたるを、この月のクーデターにて右へ引き戻したるによりて「反動」とは稱へられたり。

ロベスピエールの制定せる法の中にて、分けても惡名高きは「プレリアール法」。プレリアールは「草月」（初夏）の義。この法には、被告人に有罪を宣告せむが爲には、辯護人・證人・豫審いづれをも要せずとの規定あり。これによりて處刑は大虐殺の觀を呈したりき。

一七九四年テルミドール九日（七月二十七日）といふに、國民公會審議に繋る中、ロベスピエール逮捕の動議提出せられたり。議會紛糾するを見て萬策盡きたりとして市廳舎へ逃亡し自裁を圖る。而して重傷を負ひて逮捕せられ、翌日處刑せられたるは一代の奸雄因果觀面の末路なりき。豈ルーマニアのチャウシェスク大統領を彷彿せしめざらむや。

（令和七年三月二十日受附）